

岡山理科大学の気象学分野の特徴について

岡山理科大学の気象学分野は、他の大学にはない、**人間生活に密着した気象学**の教育研究に力を注いでいます。

- ✓ 日本各地のさまざまな地域でみられる具体的な事象をあつかう
- ✓ 人・自然・環境のつながりを意識した研究をターゲットにする

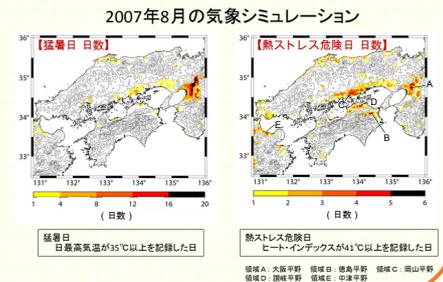
これは、**フィールド・サイエンス**としての気象学を意識しており、この部分が岡山理科大学で学べる気象学の大きな特徴です。前身の学科から数えて20年近くの教育研究実績をもち、観測機器も充実しています。



気象学分野は次の2つの専門領域で構成されていますが、地域を考えるうえでお互いが強くつながりがあるため、総合的な視野から学んでいきます。

環境気象学（局地気象、健康と気象の関わり、農作物と気象の関わりなど）

研究事例：局地風など地域特有の気象現象のメカニズム解明
熱中症の発症と気温・湿度の関連性
極端な気象環境が果樹や野菜の生長に及ぼす影響
大気汚染など地域の大気環境の調査



詳しい研究紹介は、こちらから [リンク](#)

防災気象学（気象災害、豪雨と水災害（洪水・土砂災害）の関連性など）

研究事例：集中豪雨と豪雨災害の関連性
洪水予報等災害予報の精度向上
深層崩壊（大規模土砂災害）の危険度を評価
道路災害や路面凍結の予測



詳しい研究紹介は、こちらから [リンク](#)

また、気象学を中心とする教育研究からは、次のような資格取得を目指せるような授業や実習を構成しています。 ○ 気象予報士* 測量士補 技術士補* 地域調査士 *は現役生の合格実績あり

土石流



豪雨が谷を下る際に、谷の土砂をまとめて流し下る現象です。下流に大きな被害を及ぼします。

生物地球学科の特徴でもある、**生物と地球をひとつとして捉えて科学する**考え方が、気象学分野でも活かされます。

必要に応じて、天文学・地質学・動物学・植物園芸学・考古学・地理学・恐竜学といった幅広い分野の勉強を並行しておこなうことで、気象学の多方面への応用を自分で探究できる面白さが生物地球学科にはあります。